

黒岩探訪

たんぼう

6

KUROIWA
くろいわ

オオツノシカの化石骨

かせきこつ

今回は、黒岩地区のお宝の中のお宝で、朝礼で自然史博物館の武井先生にお話をしていた「オオツノシカの化石骨」を取り上げます。小学校には、長年にわたり学習素材とされてきた痕跡がたくさん残っています。その三点を紹介します。

- (一) 昭和五七年制作版画の紙芝居
- (二) 昭和五八年制作黒岩かるた札の原画
- (三) 昭和五九年育成会子供みこし用模型



写真1 版画紙芝居1枚目



写真2 黒岩かるた「せ」



写真3 子供みこし用模型



写真4 オオツノシカの化石骨

オオツノシカの出土記念碑と鑑定書につきましては、別の号で取り上げる予定です。

地域学習が盛んだった様子が見られます。保護者・地域の方々の間に関係された方がいらつしやると思います。時代を超えて大事にしたい遺産です。

現在残っている化石は、写真4のように左右の角二点、下あごの骨三点、左肩の骨二点、肋骨一点、脊椎骨三点、左の中足骨一点の計十二点です。これらは一頭分の骨ではなく、少なくとも三頭分の骨であると鑑定されており、現在は、市美術館に委託・保管されています。

以下、市教委発行『富岡市の文化財』の中から説明を引用します。江戸時代中頃の寛政九年（一七九七）の初夏に、上黒岩の打越字蛇崩を流れる星川の川岸が大雨で崩壊して、地元住民

によって掘り出されたものです。発見後七日市藩前田家へ献上され保管されてきました。その後、昭和八年前田家から蛇宮神社に寄進され、昭和三五年、専門家の調査によって「オオツノシカ」であると特定されました。

オオツノシカはシカ科の一種で手のひらを広げたような立派な頭角が特徴で、体長は現在の牛や馬ほどありました。中央アジアの原産と考えられ、日本列島にはヤベオオツノシカという種類が四十年前頃に渡来し、約一万五千年前には絶滅したと考えられその化石はこれまでに国内の三十か所ほどで発見されています。上黒岩出土の化石骨は、日本で最も古い発見で、しかも保存状態が良いものです。

なお、出土した地層は今から二万五千年ほど前と特定されていますのでその頃生きていたものの化石骨と考えられます。